

格・取り立てと無助詞現象： 琉球語と九州方言を例に

下地理則
(九州大/NINJAL)

この発表の前提

南琉球与那国語：
主語の格助詞が生じない＝無助詞主語の問題

agami=nga 子供=SBJ	anbidungu おもちゃ	dandasyan 壊した	他動詞主語 (A)
「 子供が おもちゃを壊した。」			
agami=nga 子供(=SBJ)	aiti 歩いて	hyun. いった	自動詞主語 (S)
「 子供が 歩いて行った。」			

この発表の前提

南琉球与那国語：
主語の格助詞が生じない＝無助詞主語の問題

saban(*=nga) barun. 茶碗(*=SBJ) 割れた	自動詞主語 (S)
「 茶碗が 割れた。」(無助詞のみ可能。)	
khi(*=nga) huri=du buru=do. 木(*=SBJ) 折れて=FOC いる=ぞ	自動詞主語 (S)
「 木が 折れているよ。」(無助詞のみ可能。)	

自動詞主語の格標示の類型



下地(2016)
与那国語の格配列：
活格型。無助詞主語は「省略」ではない。

この発表では

本発表のポイント：
活格性の基盤に取り立て性があるという仮説の提示。

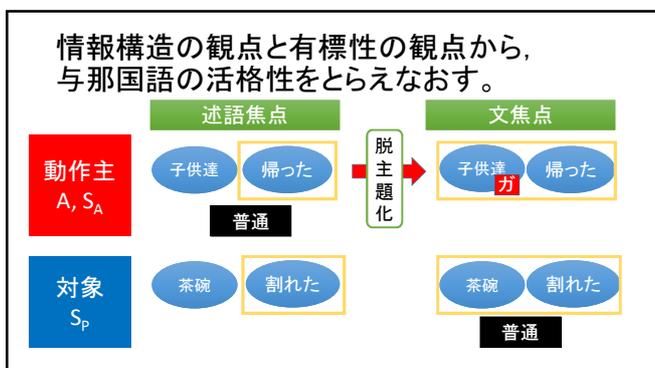
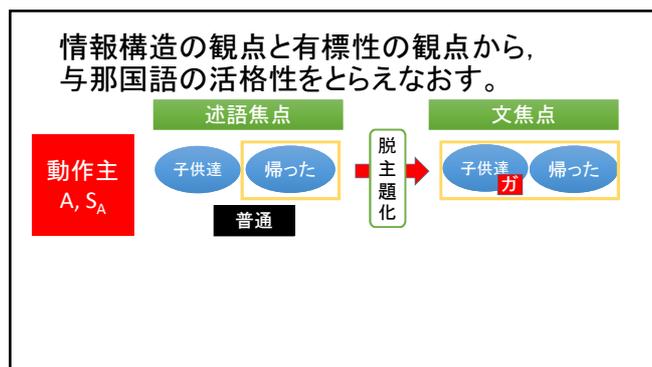
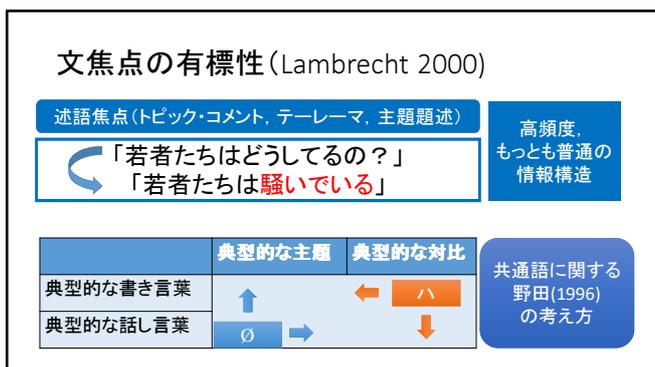
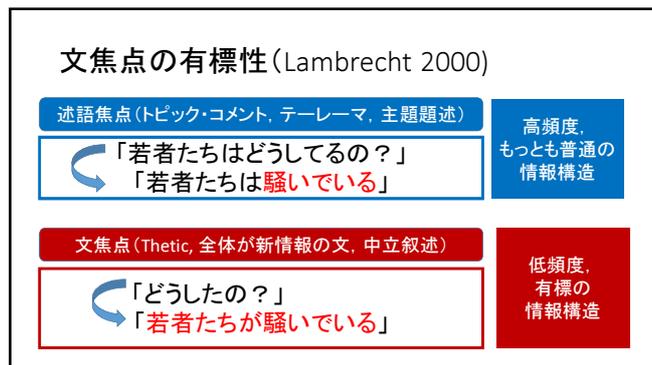
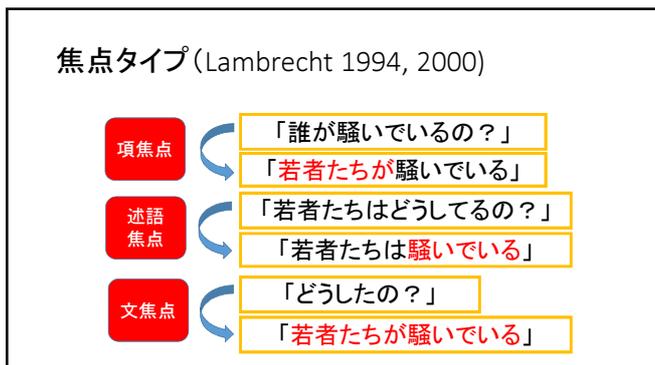
活格性は通常、取り立て性とは無関係で議論される。
活格：自動詞主語の格標示が**動作主か否か**で分裂する



ngaの機能は、主語の主題解釈を避ける**脱主題化**である。

活格性と取り立て性の関連を指摘する竹内・松丸(2015)の
関西方言の活格性の議論へのサポートにもなるだろう。

焦点タイプと有標性



与那国語の格体系と情報構造

与那国語は、文焦点・項焦点で活格型。

- 代名詞主語の文(文焦点ではない)→対格型。
- 文焦点環境→活格型。
- 項焦点環境→活格型。

	代名詞	人間	動物	無生物
A	nga			
S _A				
S _P			∅	
	対格型	活格型		

文焦点環境

A	S ₁	S ₂	S ₃	P
nga				∅

他動詞文

Aは常にnga, Pは常に無助詞(∅)

(1)	殴る	先生が子供を殴っていた。	sinsi=nga kxanu agamiti uti=du butaru.
(2)	戻す	子供が茶碗を棚に戻した。	agamiti=nga magai thana=nki mudusjan.
(3)	逃がす	巡査がどろぼうを逃がした。	dunsa=nga nusitu hingasjan.
(4)	貫く	弾が帽子のひさしを貫いた。	thama=nga boosi=nu hisasi hugasi minun.
(5)	隠す	雲が太陽を隠している。	khumu=nga thidan khagusi=du buru.

A	S ₁	S ₂	S ₃	P
nga				∅

自動詞文

動作主的

- 「(人が)歩く」
- 「(生き物が)動く」
- 「(子供たちが)帰る」
- 「(どろぼうが)逃げる」

S ₁	S ₂	S ₃
nga	nga/∅	∅

	語彙	例文	与那国訳(第一回答)	第一回答	代替可能
(6)	歩く	人が歩いていった。	ttu=nga aiti hjun.	nga	
(7)	帰る	子供たちが自分たちで家に帰ったよ。	agamitinta=nga dunudu=si da=nki hjun=do.	nga	
(8)	逃げる	どろぼうが逃げていったよ。	nusitu=nga hingi hjun=sai.	nga	
(9)	動く	動物が動いている。	munu=nga uiti=du buru.	nga	

A	S ₁	S ₂	S ₃	P
nga				∅

自動詞文

動作主的

- 「(人が)歩く」
- 「(生き物が)動く」
- 「(子供たちが)帰る」
- 「(どろぼうが)逃げる」

被動者的

- 「(新芽が)出る」
- 「(木が)折れる」
- 「(実が)落ちる」
- 「(木が)曲がる」
- 「(茶碗が)割れる」

S ₁	S ₂	S ₃
nga	nga/∅	∅

	語彙	例文	与那国訳 (第一回答)	第一 回答	代替 可能
(10)	折れる	木が折れているよ。	<i>khi buri=du buru=do.</i>	φ	
(11)	落ちる	木から実が落ちている。	<i>khi=gara khi=nu nai uti=du buru.</i>	φ	
(12)	曲がる	木が曲がった。	<i>khi mangarun.</i>	φ	
(13)	割れる	茶碗が割れた。	<i>saban barun.</i>	φ	
(14)	出る	新芽が出てきた。	<i>bai ndi aigun.</i>	φ	

自動詞文

A	S ₁	S ₂	S ₃	P
<i>nga</i>				
				φ

nga選好: 動作主的

「(若者が)しゃべる」
「(子供が)隠れる」
「(子供が)落ちる」
「(ハトが)飛ぶ」
「(猫が)いる」
「(稗が)転がる」
etc.

φ選好: 対象・被動者的

「(子供が)溺れる」
「(コマが)まわる」
「(母が)驚く」
「(友達が)酔う」
「(天気が)晴れる」
「(花が)咲く」
「(犬が)死ぬ」
etc.

S ₁	S ₂	S ₃
<i>nga</i>	<i>nga/φ</i>	φ

主語焦点環境

主語焦点化: ngaの領域が拡大。

agami(=nga) khagurun.
子供(=SBJ) 隠れた
「子供が隠れた。」

主語を焦点化する

agami=nga=du khaguru.
子供=SBJ=FOC 隠れた
「(大人じゃなくて)子供が隠れた。」

主語焦点化: しかしS₃は無助詞のまま。

saban barun.
茶碗 割れた
「茶碗が割れた。」

主語を焦点化する

saban(=nga)=du baru.*
茶碗=FOC 割れた
「(瓶じゃなくて)茶碗が割れた。」

	A	S ₁	S ₂	S ₃	P	
語彙名詞	<i>nga</i>					活格①
					φ	
語彙名詞	A	S ₁	S ₂	S ₃	P	活格②
	<i>nga</i>				φ	
代名詞	A	S ₁	S ₂	S ₃	P	対格
	<i>nga</i>				φ	

活格性の基盤としての
取り立て性(情報構造)

代名詞 vs. 語彙名詞の格配列の分裂

なぜ、このような分裂が起こるのか？

	代名詞	人間	動物	無生物
A	<i>nga</i>			
S _A				
S _P			∅	
	対格型	活格型		

有生性・動作主性とトピック性は不可分。

Generic Topic Hierarchy (Givón 1994: 22)

	Animate	Inanimate
Agent	Most topical	
Patient		Least topical

	代名詞	人間	動物	無生物
A	TOPになる可能性			
S _A				
S _P				

積極的な標示の動機付けは
名詞ごとに異なるのではないか？

Generic Topic Hierarchy (Givón 1994: 22)

トピックになりやすい名詞句がトピックになるとき

	Animate	Inanimate
Agent	Most topical	
Patient		Least topical

khari(=ya) *nni=nki* *nun.*
彼(女) 船=に 乗った。
「彼(女)は船に乗った。」

	代名詞	人間	動物	無生物
A				
S _A	∅			
S _P				

与那国語の談話データ(Shimoji 2014)
人称代名詞は無助詞主題がよく生じる。

(19)	<i>anu-∅</i> tundirariru	私は出られる。
(20)	<i>anu-∅</i> hi=du khiraru	私は行きぞする(行かなければならない)。
(21)	<i>anu-∅</i> nnirarinun	私は死ぬ。
(22)	<i>binga=nu agami=du anu-∅</i> <i>harami burujungara</i>	男の子を私ははらんでいるから
(23)	<i>anu-∅</i> nnirujungara	私は死ぬから

語彙名詞の無助詞主題は少ないが、
人間名詞(特に固有名詞)には比較的好く見られる。

積極的な標示の動機付けは
名詞ごとに異なるのではないか？

Generic Topic Hierarchy (Givón 1994: 22)

トピックになりにくい名詞句がトピックにならないとき

	Animate	Inanimate
Agent	Most topical	
Patient		Least topical

saban *barun*
茶碗 割れた
「茶碗が割れた。」

	代名詞	人間	動物	無生物
A				
S _A				
S _P				∅

saban barun
茶碗 割れた
「茶碗が割れた。」

トピックになりにくい名詞句が
トピックにならないとき

積極的
標示不要

khari=nga nni=nki nun.
3SG=AGT 船=に 乗った
「彼(女)が船に乗った。」

トピックになりやすい名詞句が
トピックにならないとき

積極的
標示必要

	代名詞	人間	動物	無生物
A	nga			
S _A				
S _P				∅

saban barun
茶碗 割れた
「茶碗が割れた。」

トピックになりにくい名詞句が
トピックにならないとき

積極的
標示不要

khari=nga nni=nki nun.
3SG=AGT 船=に 乗った
「彼(女)が船に乗った。」

トピックになりやすい名詞句が
トピックにならないとき

積極的
標示必要

	代名詞	人間	動物	無生物
A	nga			
S _A				
S _P				∅

saban barun
茶碗 割れた
「茶碗が割れた。」

トピックになりにくい名詞句が
トピックにならないとき

積極的
標示不要

khari=nga nni=nki nun.
3SG=AGT 船=に 乗った
「彼(女)が船に乗った。」

トピックになりやすい名詞句が
トピックにならないとき

積極的
標示必要

	代名詞	人間	動物	無生物
A	nga			
S _A				
S _P			∅	

対格型 活格型

与那国語の分裂自動詞性＝取り立て性が
基盤にあるのではないか？

仮説: nga の機能は、主語の主題解釈を避ける**脱主題化**である。

情報構造理論にも、以下の通言語的な仮説がある。
The Principle of Detopicalization (Lambrecht 2000: 624)
述語焦点の主語(トピック)→文焦点の主語(非トピック)
トピック標示 脱主題化

Lambrecht (2000)の脱主題化原理

The Principle of Detopicalization (Lambrecht 2000: 624)
述語焦点の主語(トピック)→文焦点の主語
トピック標示 脱主題化

- ①プロミネンス, ②語順
- ③焦点助詞, ④一致の欠如
- ⑤斜格化, ⑥S-Vの1構成素化
- ⑦ゼロ名詞の制限

与那国は①-⑦のいずれでもない。

Lambrecht (2000)の脱主題化原理の問題点

脱主題化が生じるかどうかは
名詞句の**主題になりやすさ**度合いで変わってくる可能性あり

saban barun
茶碗 割れた
「茶碗が割れた。」

トピックになりにくい名詞句が
トピックにならないとき

脱主題化
不要

khari=nga nni=nki nun.
3SG=AGT 船=に 乗った
「彼(女)が船に乗った。」

トピックになりやすい名詞句が
トピックにならないとき

脱主題化
必要

saban	barun	トピックになりにくい名詞句が トピックにならないとき	脱主題化 不要
茶碗	割れた		
「茶碗が割れた。」			
khari=nga	nni=nki nun.	トピックになりやすい名詞句が トピックにならないとき	脱主題化 必要
3SG=AGT	船=に 乗った		
「彼(女)が船に乗った。」			

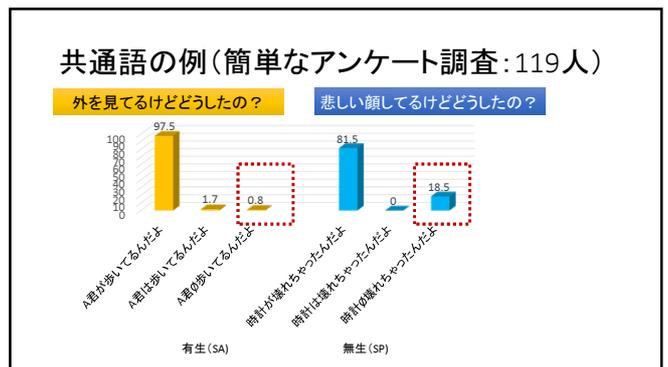
	代名詞	人間	動物	無生物
A	nga			
S _A				
S _P			∅	
	対格型	活格型		

文焦点と無助詞現象： いくつかの通方言的予測

予測① 文焦点では、無生名詞のほうが有生名詞よりも無助詞をとりやすい。

トピックになりにくい名詞句が トピックにならないとき	積極的 標示不要
トピックになりやすい名詞句が トピックにならないとき	積極的 標示必要

	代名詞	人間	動物	無生物
A		ガ		
S _A				
S _P				∅



文焦点になりやすい構文: 存現文について

- 文焦点
 - 構造的特徴: 主題と題述に分化しないような構文。
 - 機能的特徴: 聞き手に、発見した出来事(よって、主語も述語も新情報)を伝える場合が典型。

文焦点になりやすい構文: 存現文について

- 文焦点を誘発しやすい構文
 - 存現文
 - 慣用構文(定型表現): 頭が痛い、腹がたつ、泥棒がはいる、etc. (今回は深く触れず)
 - 広義の存現文
 - 存在: いる、ある、ない
 - 出現: できる、来る、みえる、咲く
 - 消滅: 消える、なくなる、etc.
 - 天候・自然現象(尾上1996はこれも「存在文に類似したもの」とする)
 - 雨が降ってる。風が吹いてきた。地面が濡れた。etc.
 - 出現要求: 水がほしい、ご飯要る? etc. (多くは主格目的語)。

共通語に関して

風間(2015: 54):

全体が新情報である文の述語動詞は、一般に存在、出現、発生、消滅などを示すので、存現文と呼ばれている。

風間は、全体が新情報の文(本発表の文焦点の文)を存現文とみている。本発表も存現文が文焦点の中核をしめるとみるが、2つは厳密にはイコールではないと考える。

	文焦点	述語焦点
存現文	あり(無標)	(ほぼ)なし
非存現文(判断文)	あり(有標)	あり(無標)

判断文: 文焦点と述語焦点の関係

• 「さっきから外みてるけど、どうしたの？」
→ 「A君がひとりで歩いてるんだよ」【文焦点】

• 「A君何しているの？」
→ 「(A君は)ひとりで歩いてるんだよ」【述語焦点】

判断文は、述語焦点が普通、文焦点が有標。

文焦点と述語焦点の関係の中で考える。

• 「さっきから外みてるけど、どうしたの？」
→ 「A君が来るよ/いるよ」

• 「A君何しているの？」
→ 「(A君は)来たよ/いるよ」

存現文は、文焦点が普通、あるいは、(存在・出現の発見というのを定義にするような立場なら)文焦点で固定。

予測②: 文焦点がデフォルトの構文(存現文)では脱主題化が起きにくい

• 脱主題化は、述語焦点→文焦点への交替が前提となっているのだから、述語焦点が普通で、文焦点への交替が見られる文においてこそ生じるはず。

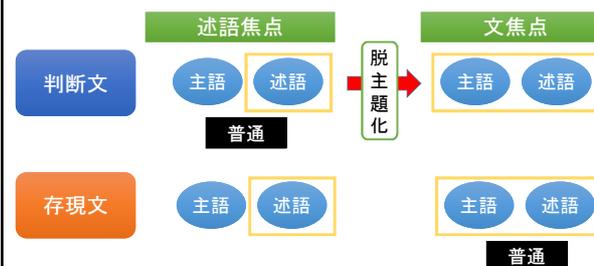


予測②: 文焦点がデフォルトの構文(存現文)では脱主題化が起きにくい

• 文焦点でしか生じないような(あるいは文焦点でばかり生じるような)存現文では、主語が主題とならないことをあえて標示する必要はない。



有標性の観点で非存現文と存現文を整理



予測②: 文焦点がデフォルトの構文(存現文)では脱主題化が起きにくい

- よって、存現文では、**判断文に比べて無助詞主語が頻発すると予測される**。この点は風間2015も指摘するが、なぜ存現文で無助詞主語が多くなるのかについて、メカニズムの説明が先行研究にはなかった。
- 「無助詞主語」の階層:
存現文のS > 判断文のS
判断文では、すでにみたように、文焦点の環境ではS_pのほうがS_Aよりも無助詞になりやすいと予測されるので、
- 「無助詞主語」の階層(改):
存現文のS > 判断文のS_p > 判断文のS_A

沖縄瀬底島 (内間1994)

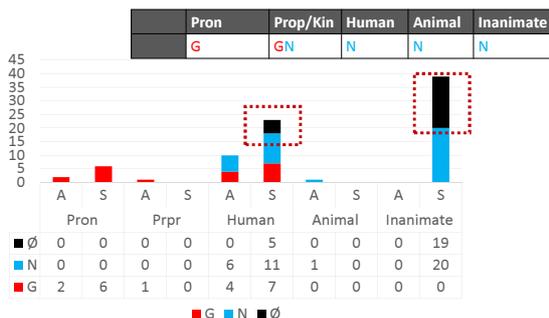
	Pron	Prop/Kin	Human	Animal	Inanimate
	G	GN	N	N	N

ガとヌの区別の詳細は詳しいが、無助詞主語は前提にない。しかし、以下に見るように、まずガの分布は上記より若干広い。そして、無助詞もかなり頻繁に生じることがわかった。(下地2015)

危機方言プロ談話データベース公開全データ(約40分)。

主題標示・ン「も」の取り立てなどを除く106例

主語焦点	連体節内	分析不可能	それ以外
9例	10例	4例	83例



沖縄県瀬底島方言の談話にみられる無助詞の例: ほとんどが存現文(・慣用文)

hitjtfa:tu ?untfu:-tu nakadzuni-nuru-tu ?unu nuru-tu-nu nakane: jinagungwa tjui ?ma:riti,	そうしたら、その人と仲宗根ノロとそのノロとの 仲に女の子が一人生まれて
?arafi: ?idzi:ti	争いが出て(起きて)
te:hu: hukiba	台風(が) 吹くと
?ansa:i waku ne:nu kunu midzia	それで 湧き(水が) なく、この水はどの
tjanuh:dzi hitji midzi jike:kaja:tji ...	ようにして水(を) 使うかと...
kumane:ja kamisama matsurari matja:gi	そこには 神様(が) 祀られ
tju:nu kunine: midzi:n ne:nritji ?ainna:ritji	人の 国に 水もないということがあるものか

沖縄県瀬底島方言の談話にみられる無助詞の例: ほとんどが存現文(・慣用文)

suido:ja:ja: ?ittji	水道(が) 各家(に) 入って
kunihiraki ji: ?imimife:nu kine: nanakine:-nu jatatu-ga je:bi:tara	国開き いーしなされた 家族(が) 7家族 だったから なのだろうか、
?ugwan hwadzimati-kara-ru	御願が はじまってから
te:ge: sannitji-kan ?ugami ?aibi:jiga	大概 3日間 御願が あります
?ugamme: ?aibi:jiga.	折願事(が) あります
hwanafi: satto:ibinsai.	話が されている。
wu:rui-mun rikito:mbin.	踊りものが できている。
ju:-?akiru:ji:	夜が 明けるまで
hwanafi: ?ainti.	話し(が) ある とおり

沖縄県瀬底島方言の談話にみられる無助詞の例: ほとんどが存現文(・慣用文)

?annin kutu ?atanne:te	あのよう な ことが あったと
?antji-nu kutu: ?ata:gaja:-ri	あのよう な ことが あったのか と思います
?umuisabi:jiga.	が
mo:kirarin tukuma: ?ariba-ru mo:ki-ru (su:ru) sa:bi:te:jiga	稼げる ところが あれば 稼ぎもしましたが
?uri-ga mata ?umu: ?imikutji ?ittfjo:sai.	それが また 芋が 大変 入って(突って) です
?unu dzinin g wa-ta: ?atjimatuti	その 下 男子達 が 集まっています
ha: mugin	皮が むける
nara: ?idzi:ti tji	涙が 出てきて

かりまた(2008: 13-14)の観察

ハダカ格の名詞が主語になる文、とくに、ひとえ文は、文全体が未知の情報を通達するばあいに使用される。そのとき、ハダカ格の名詞は、人名詞でも、もの名詞でも主語になることができる。

?arihja:, kuruma kuN=do:	ほら、 車 が来るよ。
?arihja:, d^uNsa kuN=do:	ほら、 巡査 が来るよ。
ma:-ni patji uiN=do:	ここに ハチ がいるよ。
?ai, ?ami: puttaN.	雨 が降り出した。
?agid^a, mid^i paiN	あれ、水が流れ出ている。

かりまた(2008: 13-14)の観察

ハダカ格の名詞が主語になる文、とくに、ひとえ文は、文全体が未知の情報を通達するばあいに使用される。そのとき、ハダカ格の名詞は、人名詞でも、もの名詞でも主語になることができる。

?akapuda: t^u:waN.	(徴兵の) 赤札 が来ちゃった。
panad^aki-ni me: f^ikatuN=do:	鼻先に 飯粒 がついているよ。
nama imagine: juitaN=ja:	今 地震 がよりヨッタね。

かりまた(2008: 13-14)の用例の判断文

以下は、おそらく述語焦点でトピックになりやすい名詞(代名詞・人間名詞)が無助詞の例。

?ja: da-Ngati ?ikuga?	おまえ どこに 行くの?
?aNma: da:-ni mo:iga?	お母さん どこにいるの?
wanu=ja surisuga, ?ja: suriN=na:	私は 出席するが、 おまえ 出席する?

名護市方言(島袋2006: 124-125)

- 自然現象を表す名詞が主語になる場合に無助詞(ゼロ格)になると指摘している。
- アイ, アミ プッタサ「あ、**雨**が降り出した。」
- タカワタイン ミーニシ ブケン「鷹の渡りで**新北風**が吹いている。」

仲宗根(1983)

「ガ」の付く代名詞・人名・親族呼称以外の体言に付いて主格をあらわす。この場合、**又**が省略されるのが一般的である。

例 パナーヌ サチュン(花が咲く), パナー サチュンと一般的にはいう。

首里方言(チェンバレン1895)

「日が昇った」という自動詞文に3種の言い方があり、前者2つが普通という指摘。

- ① Tida agatōng
- ② Tida nu agatōng
- ③ Tida ga agatōng

沖縄辺野喜方言・沖縄県宜野座村漢那方言
(野原 1998: 203, 237-238)

gwata jamuŋ「腹痛い」,
tjiburu jari juɸuto:ŋ「頭痛くて休んでいる」
ka:ɖsu jadi「頭痛くて」,
ɸudu magisan「丈高い」,
wata: jari:「腹痛い」,
ti: da:sanu「手だるくて」,
habu uŋ「ハブいる」

「ハもガもつけられない文」の一部
存現文の述語焦点形？

- 中島君をみんなで待ってて、遠くに発見
 • あ、中島君来たよ。
 • #あ、中島君が来たよ。
- (中島君が来るとは聞いてなかったが、遠くに発見)
 • #あ、中島君来たよ。なんで！？
 • あ、中島君が来たよ。なんで！？

中島君が話題にあ
がってる

中島君が話題にあ
がってない

上記は多くの先行研究で、両方とも文焦点(全体が新情報)とされてきたが、
厳密に考えれば、
話題に上がっているものは旧情報なので、述語焦点の一種では？

おわりに

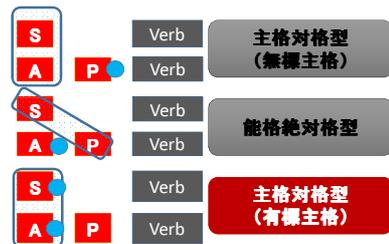
まとめ

- 与那国語の活格性は、取り立て性が基盤にあるという仮説を示した。
- ほかの方言でも、述語焦点→文焦点における脱主題化という観点で格標示の分析を行うと、新たな体系が見えてくる可能性がある。
- つまり、格と取り立てを別々に分析することはできないと思われる。
- 文焦点における無助詞主語の階層
 存現文の S > 判断文の S_p > 判断文の S_A
- 「コト」フレームの危険性:「太郎がご飯を食べた」こと
- いわゆるsubject-prominentな言語と、topic-prominentな言語における活格性は、その根本原理が違うのかもしれない。関連して、無助詞(無標)の項の格体系上の位置づけも、大胆に再検討すべき。

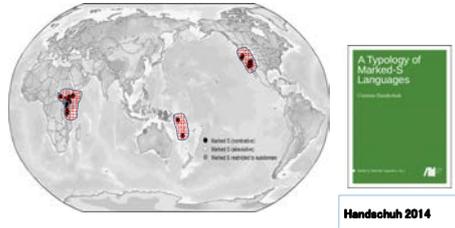
いわゆる有標主格の問題(下地2015)

- 類型論では、有標主格が極めて珍しいとされる。

有標主格:
S/A vs. Pだが, S/Aが有標



Marked-NOM言語の分布



いわゆる有標主格の問題(下地2015)

- 類型論では、有標主格が極めて珍しいとされる。
- しかし、Topic-prominentな言語においては、有形格標示の動機が、AとPの相互識別に根差しているとは限らない。つまり、述語焦点から脱主題化するという機能が本質的なかもしれない。
- Sに格標示されるのは珍しい、よって有標主格は珍しい、という論の立て方は、再検討すべきだろう。
- Sに格標示されるかどうかは、Topic-prominentな言語の場合、そのSが脱主題化標示されやすいかどうかにかかっている、とみるべきではないか？

参考文献

- Bossong, Georg. 1985. *Differentielle Objektmarkierung in den neuitranischen Sprachen*. Tübingen: Narr.
- Caldwell, Robert. 1856. *A comparative grammar of the Dravidian or South-Indian family of languages*. London: Harrison.
- チェンパレン、バシル・ホール(2005)『琉球語の文法と辞典—日本語比較の試み』(山口栄鉄 翻訳・校閲)沖縄: 琉球新報社。
- Comrie, Bernard. 1989. *Language Universals and Linguistic Typology*. Oxford: Blackwell.
- Dixon, R.M.W. 1994. *Ergativity*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Givón, Talmy. 1994. *Voice and inversion*. John Benjamins.
- Handuschuh, Corinna (2014) *A typology of marked-S languages*. Berlin: Language Science Press.
- かりまたげひさ(2008)『沖縄県名護市幸喜方言の名詞の格＝とりたて－ga格、na格、ハダカ格、jaのとりにて形－』『日本東洋文化論集』14: 1-80.
- 風間伸次郎(2015)『日本語(話しことば)は従属部標示型の言語なのか?—映画のシナリオの分析による検証—』『国立国語研究所論集』9: 51-80.
- Lambrecht, Knud (1994) *Information structure and sentence form: topic, focus, and the mental representations of discourse referents*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lambrecht, Knud (2000) When subjects behave like objects: an analysis of the merging of S and O in sentence-focus constructions across languages. *Studies in Language* 24 (3): 611-682.

- 野原三義(1998[1986])『新編 琉球方言助詞の研究』沖縄学研究所。
- 尾上圭介 1996 主題にハもガも使えない文について』認知科学学会第13回ワークショップ「日本語の助詞の有無をめぐって」ハンドアウト
- 島袋幸子(2006)『やんばる方言の助詞』名護市史編さん委員会(編)『言語—やんばるの方言—(名護市史本編10)』名護市。
- 下地理剛. 2015『琉球諸方言における有標主格と分裂自動詞性』『方言の研究』.
- 下地理剛. 2016『南琉球と那国語の格配列について』田窪行則・ジョン・ホイットマン・平子達也(編)『琉球諸語と古代日本語』東京: くろしお出版。
- Shimoji, Michinori. *forthcoming*. Dialects. In Hasegawa, Yoko, ed., *Cambridge Handbook of Japanese Language and Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 竹内史郎・松丸真大. 2015. 『関西方言の格標示のとりたて性と分裂自動詞性』日本語学会第151回ワークショップ。
- 内間直仁(1994)『琉球方言助詞と表現の研究』東京: 武蔵野書院。